

各火山の 4 月の活動解説

【北海道地方】

めあかんだけ 雌阿寒岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

全磁力連続観測によると、2013年7月以降、96-1火口南側地下の温度が上昇している可能性がある。火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

とからだけ 十勝岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加及び地震増加や発光現象などが観測されている。また、山麓の温泉成分にわずかな変化が認められている。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

たるまえん 樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

2013年7月から活発化した山体西側を震源とする地震活動は、9月以降低調に経過している。山頂溶岩ドーム直下の地震活動も低調で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報（平常）]

たいせつざん 大雪山 [噴火予報（平常）]

くつたら 倶多楽 [噴火予報（平常）]

うずざん 有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ほっかいどうこまがたけ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

えざん 恵山 [噴火予報（平常）]

【東北地方】

はっこうざん 八甲田山 [噴火予報（平常）]

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過している。2013年4月下旬から7月中旬にかけて増加した、大岳山頂直下付近が震源と推定される地震活動は、その後減少傾向となり、今期間も少ない状況で経過した。

山体周辺の地殻変動観測では、2013年2月頃

以降、小さな膨張性の地殻変動がみられていたが、8月頃から鈍化し、11月頃からは停滞している。

噴気活動及び地殻変動の状況に特段の変化は認められないが、火山性地震の活動は継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

いわてざん 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山性地震がやや多くなることもあるが、今期間、火山活動は低調に経過しており、噴火の兆候は認められない。

あきたこまがたけ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

女岳では噴気地熱域が引き続き確認されている。火山性地震は少ない状況で経過した。地殻変動にも変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められないが、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

ざおうざん 蔵王山 [噴火予報（平常）]

火山性地震は少ない状況で経過した。地殻変動及び噴気活動にも特段の変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められないが、2013年1月以降、火山活動の高まりがみられるので、今後の活動の推移に注意が必要である。

あづまやま 吾妻山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いているが、火山性地震は少ない状況で経過した。ただちに噴火する兆候は認められないが、火口内等では火山ガスの噴出が引き続きみられるので警戒が必要である。また、風下側でも火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきざん 岩木山 [噴火予報（平常）]

あきたやけやま 秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ちようかいざん 鳥海山 [噴火予報（平常）]

くりこまやま 栗駒山 [噴火予報（平常）]

あだたらやま 安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ぼんだいざん 磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】**草津白根山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]**

3 月上旬から湯釜付近を震源とする火山性地震が時々増加する状況が続いている。いずれも振幅は小さく、火山性微動は観測されていない。湯釜火口内の北壁等では引き続き熱活動がみられていることから、山頂火口から概ね 500m の範囲では、火山灰の噴出等に警戒が必要である。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるため、注意が必要である。

浅間山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、山頂火口から 500m を超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、山頂火口から 500m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰の噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

弥陀ヶ原 [噴火予報（平常）]

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるため、注意が必要である。

富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

GNSS¹⁾ による観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いているが、2011 年頃から鈍化してきている。

その他の観測データに特段の変化はみられず、火山活動は概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

三宅島 [火口周辺警戒（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっている。

GNSS¹⁾ 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、

2013 年頃から停滞している。島の南北を挟む長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるためと予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

西之島 [火口周辺警戒（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警戒]

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地が拡大しているのが確認された。海上保安庁による空中写真の計測の結果、15 日現在で新しい陸地の面積は 0.75km² となっていた。また、18 日 13 時頃から気象衛星で確認できる噴火が発生し、海拔約 2,000m の高さの噴煙を観測した。

今後も噴火が続くおそれがあるので、西之島付近では噴火に警戒が必要である。また、周辺海域では浮遊物（軽石等）に注意が必要である。

硫黄島 [火口周辺警戒（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警戒]

火山性地震は、3 月からやや多い状態で経過している。国土院の地殻変動観測では、2013 年 11 月頃から沈降の傾向がみられ、2014 年 1 月頃から停滞していたが、2 月下旬頃から隆起の傾向がみられることから、火山活動はやや活発な状態で推移している。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（旧噴火口等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福徳岡ノ場 [噴火警戒（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警戒]

28 日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近で直径約 150m の白濁した薄い緑色の変色水を確認した。浮遊物は認められていない。

海上保安庁等によるこれまでの観測では、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ
那須岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]
にっこうしらねさん
日光白根山 [噴火予報 (平常)]
にいがたやけやま
新潟焼山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]
やけだけ
焼岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]
のりくらだけ
乗鞍岳 [噴火予報 (平常)]
おんたけさん
御嶽山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]
はくさん
白山 [噴火予報 (平常)]
はこねやま
箱根山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]
いずとうぶかさぐん
伊豆東部火山群 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]
にいじま
新島 [噴火予報 (平常)]
こうつしま
神津島 [噴火予報 (平常)]
はちじょうじま
八丈島 [噴火予報 (平常)]
あおがしま
青ヶ島 [噴火予報 (平常)]

【九州地方及び南西諸島】

阿蘇山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

中岳第一火口の火山活動は、わずかに高まった状態で経過していることから、今後の火山活動の推移には注意する必要があるが、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

火口内では、土砂や火山灰等が噴出する可能性がある。また、火口付近では引き続き火山ガスに注意が必要である。

霧島山 (新燃岳) [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

火山性地震は概ね少ない状態で経過したが、新燃岳に隣接する韓国岳及び大浪池付近を震源とする地震が時々発生した。

GNSS¹⁾ 観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられる。

新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石²⁾ (火山れき³⁾) が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥流や土石流に注意が必要である。

桜島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)]

昭和火口では、爆発的噴火⁴⁾ が 18 回発生す

るなど活発な噴火活動が継続した。大きな噴石が最も遠くまで飛散したのは、4合目 (昭和火口から800~1,300m) で、噴煙の高さの最高は、火口縁上2,000mであった。

南岳山頂火口では、噴火の発生はなかった。

有村観測坑道の水管傾斜計 (大隅河川国道事務所設置) では、2013年7月頃から山体が沈降する傾向が認められ、2014年1月頃から停滞していたが、4月頃から山体が隆起する傾向がみられる。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾ (火山れき³⁾) が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。しかし、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では、火山ガスに注意が必要である。

口永良部島 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。しかし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに注意が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

御岳火口では、29日に爆発的噴火⁴⁾ が2回発生し、また、ごく小規模な噴火が時々発生した。

噴火に伴う噴煙の高さの最高は、火口縁上800mであった。夜間には高感度カメラで火映が確認された。

諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返している。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が遠方

まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ
鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（平常）]
くじゅうさん
九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
うんぜんだけ
雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
きりしまやま おはち
霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- 1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 3) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 4) 桜島、諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としている。